



催眠アプリで
クラスメイトを
寝取りリハメ!

基本CG8枚+α
本編157枚

157

157

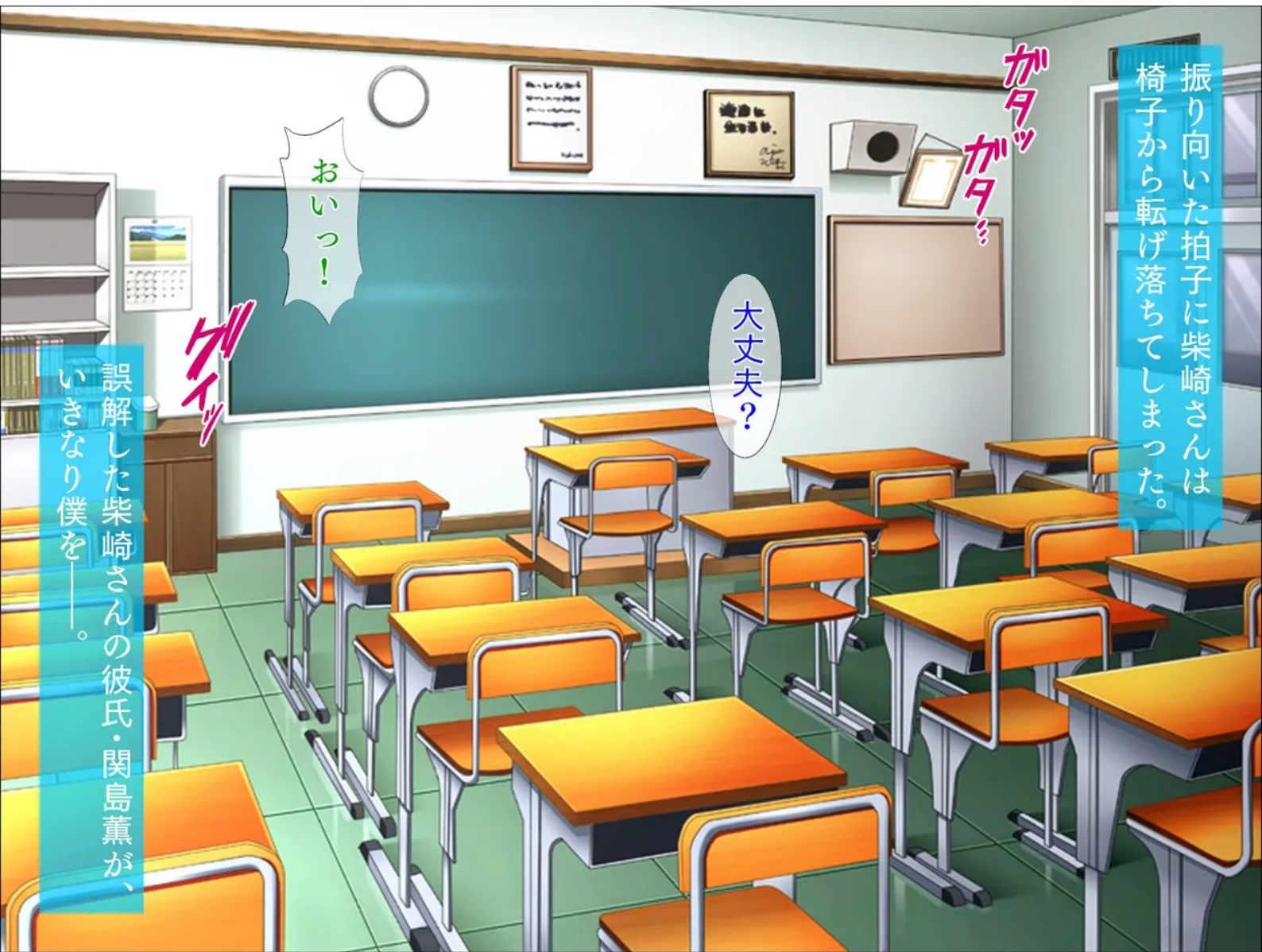
内向的な性格の僕・三沢孝太は、
周囲から雑用を押し付けられがち。

そんなある日、クラスメイトの
柴崎彩花さんに話しかけると……。

あの……柴崎さん

えっ？ ひゃっ！





振り向いた拍子に柴崎さんは
椅子から転げ落ちてしまった。

がタッ
がタッ

大丈夫？

おいっ！

ハイッ

誤解した柴崎さんの彼氏・関島薫が、
いきなり僕を――。

——床へ叩きつけた。

ドサツ

なにいきなり人の彼女を
押し倒そうとしてんだ

.....

そして、その日を境に、関島と
同級生によるイジメが始まった。

ガ
ンツ!

ガ
ンツ!



イジメが激しさを増す中、
ひよんなことから、催眠アプリを
入手した僕は復讐を計画する。

試してみようか、
一度くらいは……

ポ
ン
ポ
ン

正直なところ、九割九分以上は
効果を疑っている。

しかし、万が一にでもうまくいけば――。

催眠アプリを起動して初エッチ

翌日、柴崎さんの机の中に手紙を忍ばせ、
昼休みの屋上に呼び出した。

えっ……??
三沢くん??

あ、違う違う!!
告白とかじゃなくて

柴崎さんは、あからさまに警戒している。





大事な話って何？

見せたいものがあるんだ、
関島くんについての……

関島の浮気の証拠画像を僕が握っている……
とでも思っているのだろう。

僕はアプリを起動すると、
スマホの画面を柴崎さんに突きつける。

えっ……？

ポーン

柴崎さんの表情が明らかに変わった。





驚きが一段落すると、
にわかには欲望が湧き上がってくる。

まさか、本当に
効くとは……

ほおー♡

柴崎さんはぼんやりとして、
目の前で手を振って見たが反応はない。

す……



スマホに向けて命令を発する。

胸を見せて

.....

あま



ん...

おおっ.....

ぽっ

関島に見せるための
ブラジャーか……
それを思うと忘々しい

す……

だが、関島のためだけのブラジャーを
僕が盗み見ているのだ——。



ブラジャーを見る
だけじゃない、中身を
見ることだって……

ふるえる指先でブラジャーの
カップをつかみ、それをずり上げる。

もど…

もど…





ああ...

これが……
女の子の胸っ

ぽっぽっ

ぽっぽっ

この丸みを帯びたふくらみは、
どうしてこうも男を惹きつけるのか？



柴崎さんの
乳首っ……

はあ

はあっ

関島しか見たことがない
乳首を、僕も見てやった

それだけでも復讐心が満たされる。



中身を見たら、
触ることだって

はっ

はっ

緊張で指先をわななかせながらも、
ゆっくりと乳首に迫っていった。



ああ...

くは

くは

彼女は抵抗しようとしな



触っちゃったよ、
柴崎さんの乳首をつ！

はっ

はっ

ぶっ

くっ

くっ

くっ

ぶっ

僕は、感動のあまりに
卒倒してしまいそうだ。



あっ……んっ ……うっうっ

ぶる

に

に

に

に

に

に

ぶる…

思い切って乳首を摘んでみた。

もっと触っても
大丈夫かな……



こんなことは、この先の人生で二度とないかもしれない。

今は、僕は柴崎さんの乳首をしゃぶりたい。

守



わあっ

あ

ま

く

く

もっとしても、
大丈夫だよ

うら...

手のひら全体で
乳房を鷲づかみにする。

ま

ま



あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ
最高だっ！

うっっっ...

んっ...

んっ...

ぎゅっ

おっっ

おっっ

おっっ

関島の知らないところで
奴の彼女としているのだ。



最高だけどつ——
胸だけじゃ……
我慢できないっ！

はっ

はっ

はっ

おにゅ

おにゅ

きゅ

おにゅ

おにゅ

胸だけじゃなくて、
最後までっ！

さらなる命令を下すため、
柴崎さんの乳房から手を離した。

柴崎さんは、僕の命令通りに
四つん這いとなっていた。

おちっ

柴崎さんって、
こういう下着を
穿いているんだ

ふっふっ

関島の奴とするつもり
だったのかな……？

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ





激しく心臓を鼓動させながら、
同級生女子の下着に手をかける。

もど

もど

はき

下着の上からだけじゃなくて、
直に見ることだってできるんだ

はき

おちっ

けさっ

これが、
柴崎さんの
あそこっ！

けさっ

ぼっ

んんん

あぁ……
んっ……





関島にしか見せたことが
ないであろうところ——。

ふんふん……

んんん

んん

んん

んん



スマホに向かって言葉を発すると――。

発情して!

アプリで命令すれば、
発情するのかな?

スマホ

おは

おは

おは

おは

効果はすぐに現れた——。

はぁ

はぁ

んああ……はああ、
んっ……ああ……

あそこが……なんだか、
あっ……んっ……んううう

はぁ

びっ
びっ
と……





発情はさせられたけど、
それだけじゃおもしろくない

僕を関島だと思っ込め!

僕は彼女の恋人として、
セックスすることにした。

んっ

んっ

んっ...

んっ

びしょ

びしょ

んっ...

柴崎さんは意識を取り戻したようだ。



わたし、どうして
こんなところに？

えっ……？
きゃっ……？

ほあ

ほあ

ほあ

ほあ

僕は、関島になりきって喋った。

ここでしたい！
ゴムはないけれど、
かまわないよね

嬉しい！
薫がその気になっ
てくれて

今まで、キスとか
触るくらいしかして
くれなかったでしょ

んっ

びっ
っ

び
っ

とろ
ろ

あ

おは

柴崎さんって、
まだ処女なのっ？

はっ

はっ

はっ

くっ

はっ

はっ

ああ、屋上でっっていうのは
恥ずかしいけれど……嬉しい

はっ

はっ

私、初めてだから
……やさしくしてね

んっ





柴崎さんの膣穴からは、赤いものが流れ出ていた。

んあっ
おあおあ

ぬぶっ

ぬー
ズキ
ぬー

ぬぶっ

したんだっ！
僕は、女の子と
したんだっ！

はっ

はっ

ズキ





あああ、んあああ
……ひいっ……

待って、薫……
まだ……痛いの

ぬっ

ぬぶっ

ぬぶっ

ぬい
ぬっ
ぬい

ぬっ

んっ

ぬっ

牡の欲望にまかせて
僕は腰をつかい続けている。

めー
ぬぷっ
ぬぷっ

ぬぷっ

ぬぷっ

ぬぷっ

ごめん、我慢できないんだ！
彩花のあそこが気持ちよくなって

あっ

んあああ……あああ
私も、薫の感じられて
……嬉しいの

ほっ



薫にしてもらったから、
気持ちよくなったの

はっ

なんだか……あそこが、
よくなってきたみたい

初めてなのに、
もう感じているの？

ぬぶっ

ぬぶっ

ぬぶっ

あっ

んっ



初めてなのに……
いっちゃいそうなのっ!

薫にしてもらって……
わたし……いきそうなのっ

ぬぶっ

ぬぶっ

ぬぶっ

んっ

あっ

んっ

僕もいきそうなんだっ！
中に出していいっ？

ぬぶっ

ぬぶっ

薫の、私の中に出してっ！
いつ薫としてもいいようになって、
ピルを飲んでるからっ

んあああ……はあああ！
いくっ……いくっ……

あっ

はっ







んんっ……んはああ……
薫のが、私のおそこにつ

想像していたよりも、
ずっと気持ちいい……

関島への妬みが深い分だけ、
今の状況に優越感を覚えていた。



柴崎さんは、僕のもので
処女喪失したんだよ

おっぴん

ソコカ

ソコカ

ソコカ...

おっぴん

んっ...

おっぴん

おっぴん

おっぴん

射精の快楽に酔いしれるとともに、僕は催眠アプリの威力に感じ入っていた。

こんなことまで
できるなんて、
すごいアプリだ

薫……もう
1回しようっ！

はー♡

ぐちゃ

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ドロオツ

ドロオツ

んっ……♡

ふっ♡

はっ♡

はっ♡





うれしい……薫にしてもらって。

薫とこうしていられて、幸せ♡

また明日も……してほしいな♪

催眠アプリで彩花の自室に侵入

放課後、彼氏と腕を絡め歩いている彩花を見かけた。

ひひっ

いっ気なもんだ

そのあざけりは、関島に向けてのものだ。



彩花の処女を僕が
いただいたとも知らずに

よっぴんさん
思っただけ……

関島と別れ帰宅する彩花を追うと、
僕は催眠アプリを起動させた――。

ポッポッ

ポッポ





何かがお尻に触った感じがします。
反射的に振り返っても……何もいません。

ひゃっ!

ぱっ

帰宅した私は、制服を脱ぎました。
そして、下着だけになった時――。

私は、ベッドでうつぶせになり、スマホをいじっていました。

本当に気づいて
ないみたいだね

あれ……？

何か聞こえた
みたいだけど？

んっ…

んっ…

んっ…

んっ…
んっ…



おそらくは気のせいでしょう。

カチカチ

んっ…

びん…

気づいていないなら、
このまま……





あそこがずきずきし始めました。
何か、押し広げられるような感覚——。





少しだけ不安がよぎります。

ぬぶっ

ぬぶっ

わたし、どう……
しちやったのかな？

やっぱり、女の子の
あそこは最高っ！

あああっ

とその時、メッセージアプリに
薫からの着信がありました。

今日、ちよつと様子が
変だったけど、大丈夫？

ポイント



それから、親密なやり取りを
続けていると――。

あああ、わたしも……
んあ……だいすき……よ

大好きだよ

ひとり言とともに
メッセージを打ち込みました。

ぬぶっ
ぬぶっ

ぬぶっ

ぽぽん

ぽっ

ぽっ

んっ

ほっ

あっ



文字を打ち込んでみると、
息が途切れ途切れになってしまいます。

わ、わたし、もっ……
だ、い、っ、す、き、っ、だ、よ、う

そろそろ、
出そうだ！

はっ

は

ぬぶっ

ぬぶっ

ぬぶっ

ぬぶっ

ぽ

ぽ

ぽ





ふふふ……薫からのメッセージに
胸が熱くなっちゃった。

たまには、体調が
悪くなるのもいいかも……。

満ち足りた気分で
私はベッドに突っ伏しました。



ファミレスで淫らな愛撫

彩花と関島のデートを尾行し、ファミレスへとやってきた。

こっちの席にこい、店の奥の席だ

お客も店員も極端に少ないことを確認した僕は、アプリを起動し――。

ポイント



ほおー♡

あれ？ わたし……
何をしていたのかしら？

確か……薫とファミレスに
来ていたんだっけ……

彩花……
大丈夫か？

薫とファミレスに来たのは
間違いないようです。しかし——。



私の隣には、なぜか三沢くんが座っていたのです。

えっ……？

ん？

しかも、三沢くんの手が私の股間を触っています。

んんん

んんん



あのさ……どうして
そいつを呼んだの？

だって……
仲直りしないと

三沢くん悪い人じゃないのに、
今の状況はかわいそうでしょ

思ってもみない言葉が、
私の唇から出ています。

ん？…

シヤッ

シヤッ

シヤッ



やめなさいよ、
……この変態っ

心の中では三沢くん
に罵声をあびせています。

Soup

LUNCH
&
DINNER
2017 AUTUMN

ほっ

っ

っ



しかし、私の肉体は
何の抵抗もしていません——。

あああ……そんなところ
触らないで……あひらいらっ

お願い、薫
……助けて

彼は、席を立ててドリンクバーへ。

ちよつと飲み物
取ってくるよ



ねえ、もっと
強くさわって

そんな触り方だと、
……いけないから

でも、いいの？
大好きな彼氏の前だよ

いいの、その方が
興奮するから……

ほっ

あ

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

私は耳を疑いました……
自分からおねだりしているのです。

はっ
あ
本当にいいんだね？

うん……そのために
隣へ座ってもらったから

私が？ 自分から誘ったの？
嘘よっ、そんなの絶対に嘘よっ





おかえりなさい、薫

薫が帰ってくるのを待っていたかのように、
愛撫が激しくなりました——。

ああ……



あ
どうした、彩花?
……大丈夫か?

あ
うん……平気

あ
んっ……
うっ……

三沢くんは、蕾の包皮を剥くようにして、
直にこすってきたのです——。

あ
んっ
んっ



薫に気づいて
欲しいんだけど、
聞かれたくない

Soup ...
LUNCH
&
DINNER
2017 AUTUMN

私、どうすればいいの？
あああ……はあああん

はっ

あ

ぐわ
ぐわ
ぐわ

私が高ぶっているのを察知したのか、
三沢くんの指は淫猥さでくねりだしました。

どうした、彩花っ？
具合が悪いのかっ？

んあっ
んうう



んはあ

あ

……ひさしぶりの
デートだから、ちよっと、
胸がどきどきしちやって

あ

んっ
んっ
んっ
んっ



私の肉体は高ぶってゆく一方でした。

感じちゃいけない
いけないのに……

はあああ……んああ
いっ、気持ちいい

あ

ん

ほ

ん

ん

ん

ん



あ

ん？ 行っくって、
……どこに？

あつ、もうっ、だめっ！
わたし……いきそう

あ

薫の前でいっっちゃう
なんて、絶対にだめ

あ

あ
あ
あ
あ



おい………彩花っ
どうした？

わたし……
いっちゃった

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ぬちゃ……

んっ……

んっ……

んっ……

んっ……

んっ……



この期におよんでも、
薫は私の異変に気づいてくれません。

それがよいことなのか、
悪いことなのか――。

私にはわかりません。

映画館の座席でセックス

デート中の彩花を尾行し、映画館へ。
僕は、中座した彩花に話しかける。

三沢くん!? まさか、
後をつけていたの?

せっかくだから
一緒に観ようよ



特等席があるからとでもいうように、
僕自身の膝をぽんぽんと叩く。

そんなところに
座るわけないでしょ

ぽんぽん

ドン引き顔を楽しんだところで、
僕はアプリを起動する――。



気がつけば私は、三沢さんの膝上に座っていました。

んんっ……
んんっ……
んんっ……

他にも人がいるから、
しゃべれなくなりましたんだ

しかも、股間にはおぞましいものが、
打ち込まれているのです。



私は、ふとあることに気づきました。

痛く……ない？
そんな……まさか

まさか……わたしの初めて、
三沢くんに奪われていたの？

ジグッ

ジグッ

ジグッ

!?

んっ

んっ

んっ

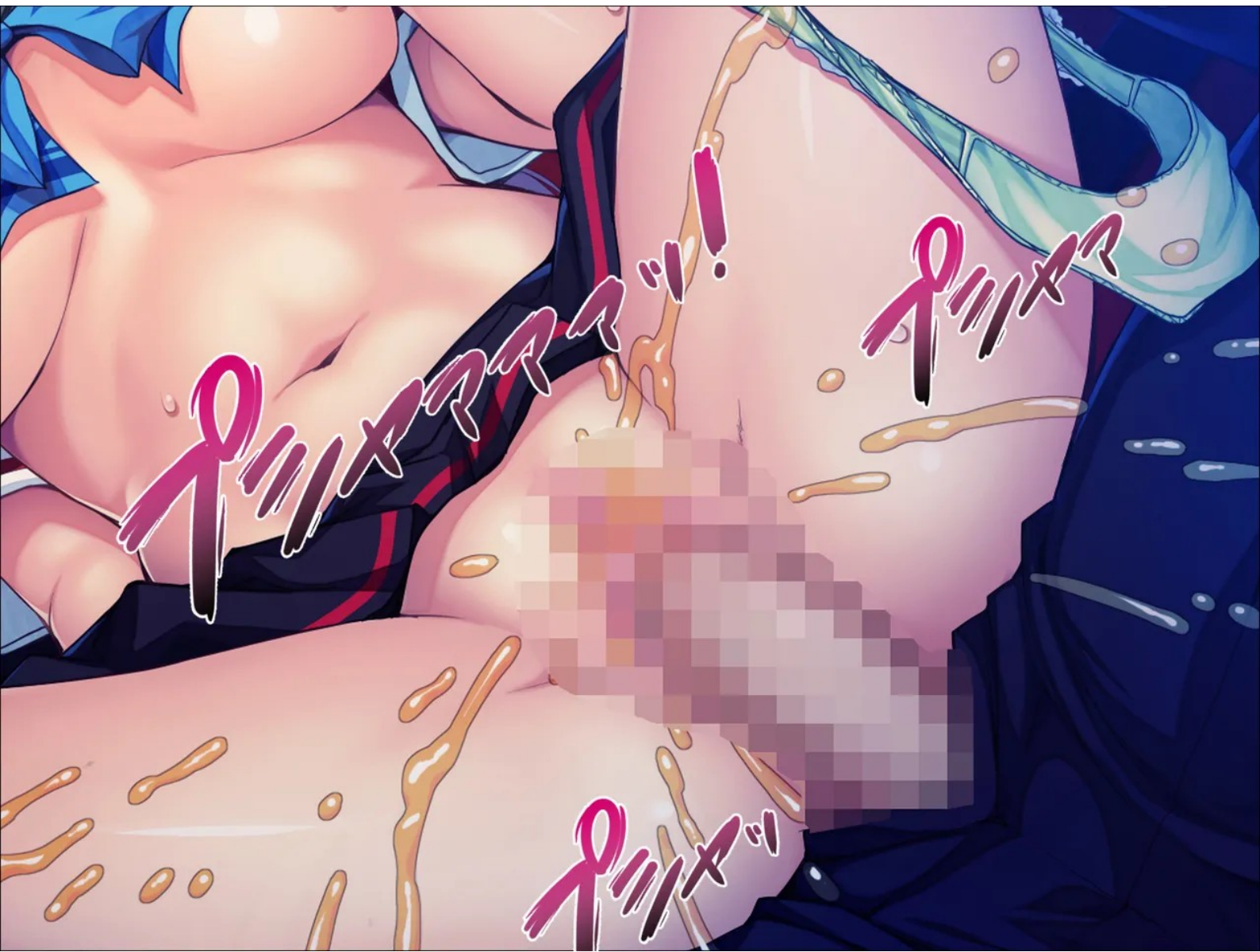
そういえば柴崎さん、
トイレに行くんじゃない？

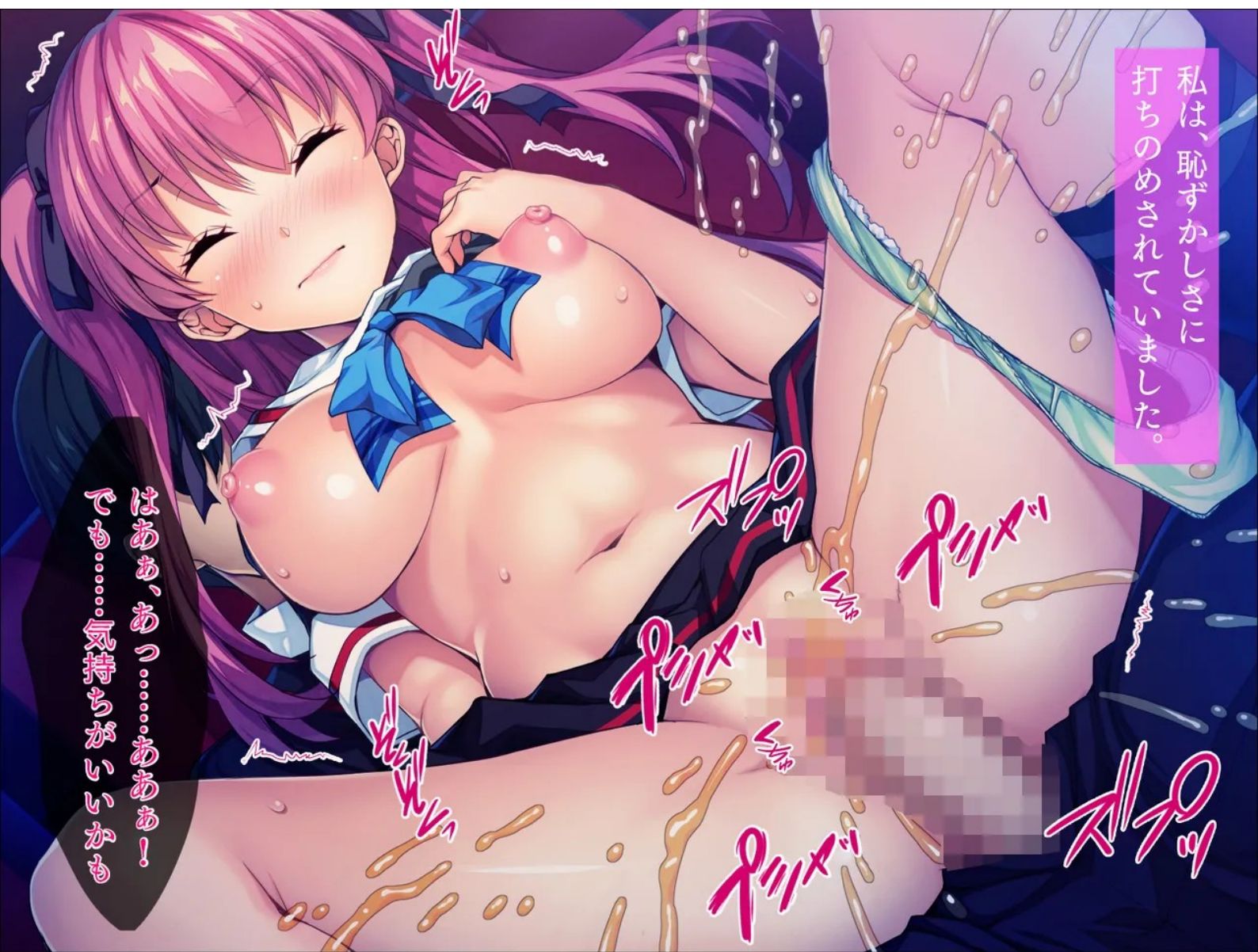


三沢くん指摘され、突然尿意が私を責めさいなんできました。

はあああ、あああ……んっ
おしっこ……漏れちゃう







私は、恥ずかしさに
打ちのめされていました。

はあ、あー……あもあー！
でも……気持ちがいいかも

女の子のおしっこを
生で見るのは初めて

私の放尿姿で欲望を煽ってしまい、
やり切れない気分です。





三沢くんの腰づかいが、
さらに加速しました。

んはあぁ、んあぁー！
ららら……あそびがう

おっぱい
おっぱい
おっぱい
おっぱい
おっぱい

三沢くんなんかで
感じるはずなのにっ
あっ……はああんっ！

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ

おっ

おっ

おっ

んっ

んっ

んっ

あそこの蕾も膨張しきっていました。





クリトリスを、気持ちよくなるように触るんだ

んっ、んんんんうう
……んんんっ？

私の意思に反して、
手がひとりでに動き始めます。

おっ
おっ
おっ

んっ

んっ

んっ

おっ

おっ

おっ

おっ



何なの？
どうして………
手が勝手に

好きでもない男子を前にして
自慰の指づかいを披露してるのです。

おっ
おっ

わっ

わっ

わっ

わっ

わっ

わっ

わっ

おっ





んあああつ！ いくつ……あああ、
んはあああああああああつ！

ピクピク

ピクピク！

びびび

ピクピク

びびび

びびび



やめて……あそこの中で
出すのだけは……んああ、はああ。

心の中での声は、
三沢くんが届きません。

たとえ届いたとしても、
止めてくれるとは思えませんが……。

海デート中に彼氏の目の前で潮吹き

事前に彩花のデート情報を握った僕は、
関島に暗示をかけデートに乱入した。

どうしようことっ?

彼女とエッチをする時には、
男友達のものを使うのが当然だろ



三沢くん、まさか
薫にも催眠を？

動くな！

ヒッピン

うう...

7/17

その場から逃げようとした彩花を、
僕は催眠アプリで動きを封じた。





あれ……？
嬉しくないの？

すぐ目の前に薫がいるのに、
三沢くんは背後から抱きついてきました。

ひっ、あああ、やめて
……薫の前でこんなこと



むいっ

もみっ

嬉しいわけないでしょ……
薫の前でこんなことをされて

僕は、関島くんに頼まれて
こうしているんだけど？

それは三沢くんが……
んうう、んっ……んああ

やっ

やっ

やっ

んっ

んっ

んっ



私の身体に甘い電流が走りました。

僕とのエッチを、
関島とだと思って

だったら……
こうすればどう？

ポッ

やっ

やっ

あーん
もみん

やっ

やっ

んんん

んんん

んんん

んんん…



三沢くんの指づかいが、
さらになじやらしくなります。

うん……
それじゃあ

もっとして！
もっと強く触って

あ

ん

ん

ん

は

も

お



口では、甘く恥らっていますが、
心の中の私は恥辱に泣いていました。

こんなのいやっ……
いやあああああっ！

あっ

ばっ

おっ

んっ

ああん、恥ずかしいよ！
こんなところで……

んっ

んっ

んっ

ばっ

んっ



そこは、そこは許して！
感じすぎちゃう……

薫に見られているのに、
気持ちよくなっちゃう……

おにゃ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



三沢くんの手つきは、ますます淫らで執拗なものになりました。

ああ、頼むよ

あ

あ

あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ

あそこから愛液があふれちゃってるね
入れる前に、一回いかせておこうか？

あ



薫に見られて……
興奮しちゃってるの

彼氏である薫の視線が、
淫情をさらに激しくしています。

いっっちゃうっ!
いきそうなのっ

もみぢ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



あああ、んっ、
……あんっ！

あ

あ

もっも

もっも

もっも

もっも

もっも

もっも

もっも

薫に申し訳ないのに、
申し訳ないんだけど……

あ



我慢することなんてないのに、
彼氏の前でいっちゃいなよ

とどめとばかりに、陰核を摘み上げられました。

薫の前なのに、
いっちゃうっ！

三沢くん……..
いかされちゃうっ

もみもみ
もみもみ

んんん
んんん
んんん

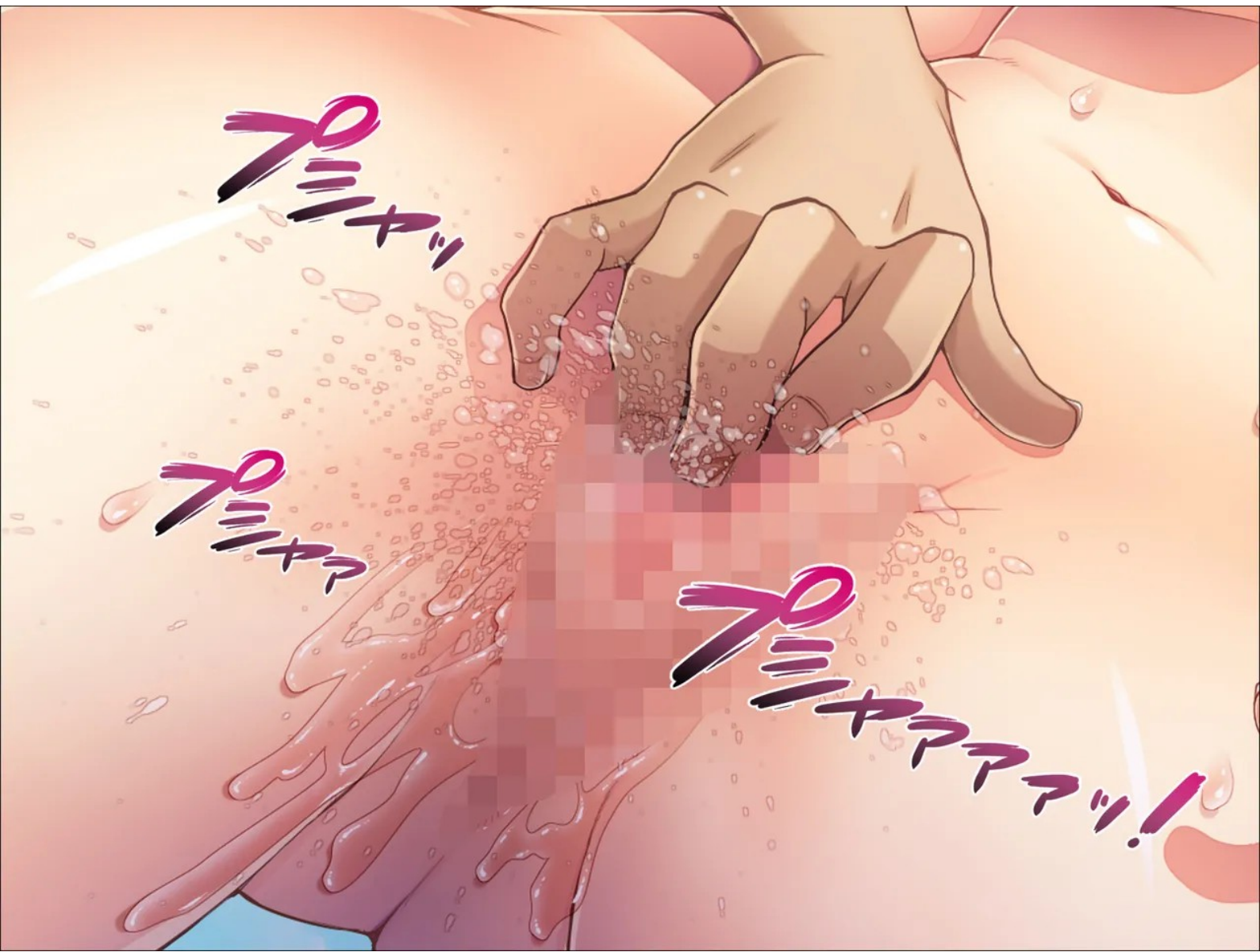
んんん
んんん
んんん

あッ

あッ

あッ

あッ





あー!!
んあー!!

ゴックン!!

アハハハ!!

ゴックン!!

アハハハ!!

アハハハ!!

ゴックン!!

アハハハ!!



彼女を前にして、他の男子の愛撫で
いかされてしまったのです。

ああ、んっ、はあああ
……わたし……イチやった



わたし、いかされちゃった
薫の前で、三沢くんは……

肉体的な快楽に溺れつつも、
心では恥辱に泣いていたのです。

んっ...
どうだった、彩花？
気持ちよかった？

うん、とっても気持ちよかった、
薫に見てもらっていたから

そろそろ
しようか

薫の前で潮を噴かされただけでなく、
私は犯されようとしているのです。



私の身体は、前かがみになって
薫の腰にしがみついています。

びん
びん

グイッ

びん

あ

あ

……早くう
わたし、もう
たまらないの

三沢、頼むぞ





催眠の影響下にある私は、彼氏ではなく、三沢くんにおねだりしているのです。

まかせといてよ！

びんっ

あああ、来て
……ちようだい

おん

きて……
私の初めて、
もらって

びんっ
びん

グイッ

初めてね……くくくつ
関島くんのために、
僕のものを入れるから

三沢くんはくすくすと笑いながら、
私のあそこに押し入ってきます。

くっ





心の中の私は、血を吐くような
悲鳴を上げていました。

あああ、薫のあれが
入ってきている……

いやあああああつ……
いやつ、やめてえええつ！

あつ

あつ

あつ

あつ

はつ



違うのっ……私、こんな
いやなのっ、いやなのっ

あんっ……いい！
あそこが気持ちいいのっ

薫の腰にしがみつきな
ながら、私はふしだらな啼き
声を放っていました。

んっ

ズン

あ

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

僕も気持ちいいよ!

感じちゃいけないけど
……んはあ、ああん

素に戻っていいよ、
身体はそのままです

そして何を思ったのか、三沢くんは、
催眠の一部を解除したのです。



三沢くんっ!
絶対に許さないっ!
一生恨むからっ!

ほ?
彩花、どう
したんだ?

ズシッ!
ズシッ!
ズシッ!
ズシッ!

ぐるんっ

私の剣幕に驚いたのは、むしろ薫の方です。





やれるものなら
やればいいよ

ズンッ!

ズンッ!

ズンッ!

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

はあ、んくう
ゆるさないから



私の中心部をえぐりまわしながら、
三沢くんはまた命令するのです。

関島としている
と思ってる喜んで

その命令が、催眠となって
私を縛りつけます——。

ズンッ!

ズンッ!

ズンッ!

はっ

わっ

んっ

んっ

んっ



いい...
とってもお
ああんっ♡

許さない.....
絶対に許さない!

心の中で恨み言を唱えることで、
私は何とか意識を保っていました。

ズンッ!

ズンッ!

ズンッ!

ぐるん

あ

ん

ん

ん

ん

ん

あー

ん



私、三沢くんのもので
薫とエッチができて幸せ

ほッ

あッ

ズン!!

ズン!!

ズン!!

んッ

んッ

んッ

んッ



出してえ……

ズググッ!
ズググッ!
ズググッ!
ズググッ!

だったら、中で出してもいいかな?

あ、三沢くんの精液は薫の精液だからっ!

三沢、思う存分の中出ししてやってくれ



あつ

快樂のあまりに脚がわなないて、立っているのがやっとです。

あつ

あつ……
ひいっ!!

ズン!!
ズン!!
ズン!!

すごいっ……
そんなに激しくっ!

あつ



あ

ここも
いじって
あげよう

そこをいじられ
ながらされると……

ズンッ!

ズンッ!

ズンッ!

は

すぐにいつちゃうの……
いかされちゃうのっ!

ん



くっ……
出そうだ

わたしのあそこに……
三沢くんの精液を出してっ

わたしも、もう
いきそうなのっ!

いやっ……絶対にだめええっ!
中で出すのもっ、いっっちゃうのもっ

あ

ほ





薫の前なのこっ……あああっ、はあああああああああっ！

あーあーあー
あまあま

セリグツ

ぶぶぶ

セリグツ

セリグツ

びしょ

あー

アウグツ!!

アウグツ!!

セリグツ

セリグツ!



びくっ

びくっ

びくっ

びくっ...

いやああああっ！
薫が見ているのだから
中だっ！.....

三沢くんの精液がっ
あそこの奥につ.....



子宮は精液で満たされ、
私の心は白濁に染め上げられます。

わっ、わっ、わっ
.....さやあまあまあま

びゅん...

あそこの中に
.....精液があ

びゅん
びゅん

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん...

びゅん...

164



三沢のもの、
気持ちよかったか？

気持ちよかった
とっても幸せ……

これからは、
いっぱいエッチしような

んっ……

おっ

おっ

おっ

おっ

ぬちゃ……

ぬちゃ……

どろろ

トロナッ

ぬちゃ……

トロナッ



うんうん……
僕もお手伝いするよ

いっぱいいっぱい、
エッチしようね……
三沢くんのもので

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ぬちゃ……

ぐん……

シロオ……

シロオ……

おっ

おっ

おっ

おっ

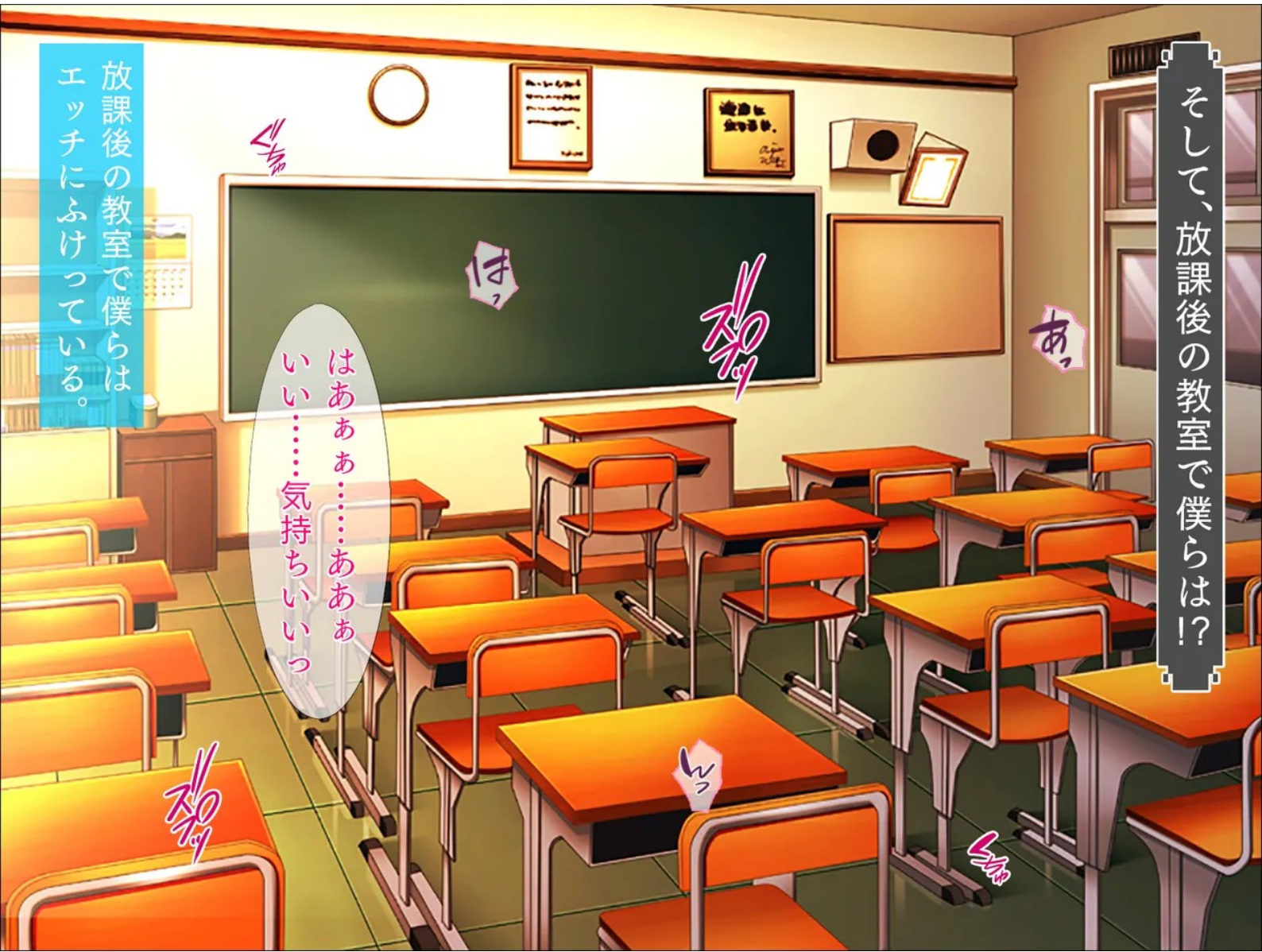
許さない……絶対に許さない……。

奈落の底で誓います。

どんなことをしても復讐してやると、
誓ったのです。

絶対に許さないんだから……。





放課後の教室で僕らは
エッチにふけている。

はあああ……あああ
いい……気持ちいい

そして、放課後の教室で僕らは!?



今や僕は、好きな時に好きなだけ
彩花を楽しめる身分になったのだ。

具合がいいよ、
彩花のあそこ

んあああ………いっつ！
あそこがいいの………

三沢くんのに
かきまわされて

はっ

あ

ん

ん

ん

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ





あああ……んっ!
んはああああああ!



彩花は陶酔の表情を浮かべている。

あああ……
三沢くんのが、
あそこの奥に



ねえ、気持ちよかった？

うん、気持ちよかったよ

あのアプリ、もう消しちゃってもいいんじゃない？

必要ないでしょ♥

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ



この違和感がなかったら、
もっと腰を使えるようになって、
気持ちよくしてあげられそう

んっ

んっ...

なんだか、身体に
違和感があるの

んっ

んっ

んっ

んっ



僕はスマホの画面を見せて、
アプリ削除を確認させる。

……ほら、
消したよ

ただでさえ気持ちいいの、
もっと気持ちよくなれるのか

……

……

……

んっ

んっ



突然、関島と取り巻きたちが
教室へ入ってきて――。

覚悟はできて
いるんだろうな？

そう……
消したのね

三沢くんも……
一緒に消えるのよ

ガラッ



僕の意識はそこで途絶えたー。

えっ……？

言ったでしょ、
絶対に許さないって

～おしまい～